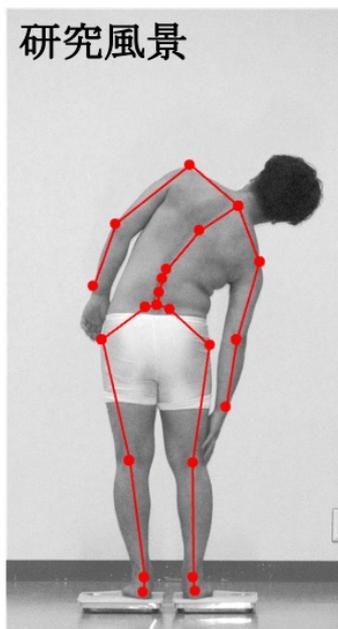


## 片手を膝の外側へリーチした時の体重移動は 体幹の柔軟性に影響を受ける

小島佑太

令和4年度に修了した小島佑太と申します。みなさんは物を掴む際に、姿勢について意識したことはありますか？ 大半の方は、姿勢ではなく、物を掴むという行為自体に意識が向くかと思います。しかし、物を掴みにいく際の身体の姿勢の変化は無意識におこなわれています。私はこの無意識に生じる姿勢の変化について研究をおこなっており、病院に入院している患者さんの身体の動きを良くすることを目的に研究を行っています。より具体的にお伝えしますと、入院している患者さんが自宅へ帰ることができるかどうかは、他者の手助けを借りずにトイレを1人でおこなえるかどうかが基準になります。なかでも、脳卒中の患者さんでは身体の片側の腕と脚が麻痺しており、体幹の柔軟性が低下しているため、片手でズボンを上げ下げすることが難しいです。そのような患者さんの姿勢変化を理解することを目的に、ズボンを下げるときと類似した動きである片手を膝の外側へリーチした時の姿勢変化について検討しております。大学院在学中には片手で膝の外側へリーチした時の姿勢変化だけでなく、体重移動についても検討しておりました。その結果、片手で膝の外側へリーチ時には手を下げた側へ体重移動することがわかりました。ただ、体幹の柔軟性が乏しい場合には、手をリーチした側と反対へ体重移動することがわかりました。本研究からの予測として、脳卒中後の患者さんが下衣脱衣時のように片手を膝の外側へリーチした時には体幹の柔軟性が乏しいため、麻痺のある脚へ体重移動が生じてしまい、支えきれずに転倒の危険性が生じる可能性があると考えております。

今回おこなった研究は神経や筋肉に障害を持たない健康な人を対象におこなったものであり、脳卒中後の患者さんにも同じ結果がでるとは限りません。しかし、脳卒中後の動作を



改善するためには、まず健康な人の動作を知る必要があると考えます。今後は実際の患者さんでも同じ結果が出るのかを検討し、リハビリテーションのなかで患者さんの身体の動きを良くする手助けをしていければと考えています。